

感染症と登園のめやすについて



保存版

○医師が記入した意見書が必要な感染症（登園許可証が必要）

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	登園のめやす	家庭で注意すること
インフルエンザ	1～2日	症状がある期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで	家で安静に過ごす
百日咳	平均7日程度	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	食事は咳き込んで吐くので1回量は少なく、回数を多くして、消化の良いものにする 咳が軽くなって、機嫌や食欲がふつうになれば、入浴してもよい
麻疹（はしか）	11～13日	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱した後、3日を経過するまで	高熱が続くので、適切な体温調整をする 食欲がなくなるので水分補給と消化の良い口当たりの良いものにする
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	平均18日程度	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	痛みのある時は、酸っぱいものや固い食べ物は避ける 頭痛や嘔吐がある時は髄膜炎の可能性があるので受診
風疹（三日はしか）	14～21日	発疹出現後の前7日から後7間くらい	発疹が消失するまで	熱がなく元気でも、発疹がなくなるまでは家で過ごす ※妊婦の感染に注意
水痘（水ぼうそう）	平均14日程度	発疹出現1～2日前からかさぶた形成まで	すべての発疹がかさぶたになるまで	掻きむしらないように爪を短く切る ※妊婦の感染に注意
咽頭結膜熱（プール熱）	5～6日	発熱・充血等の症状が出現した数日間	主要症状消失した後2日を経過するまで	のどの痛みと高熱が続くのでゼリーや豆腐など喉越しの良い食べ物にし、脱水予防に水分は十分に飲ませる
結核			伝染のおそれがなくなるまで	届出が必要
腸管出血性大腸菌感染症	3～5日		症状が治まりかつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によっていずれも陰性が確認される	食物と調理器具の取り扱いに注意 脱水に注意する
流行性角結膜炎	1週間以上	発熱・目やに等の症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから	タオルなどの共有はしない
急性出血性結膜炎	1～3日		伝染のおそれがなくなるまで	タオルなどの共有はしない
髄膜炎菌性髄膜炎	2～4日	頭痛、発熱、痙攣、意識障害、髄膜刺激症状、乳児では大泉門膨隆	伝染のおそれがなくなるまで	

○医師の診断を受けて医師の許可のもと登園ができる感染症

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	登園のめやす	家庭で注意すること
溶連菌感染症	2～5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること	家族にも感染するので注意 のどの痛みがある時は、酸っぱいものや固い食べ物は避ける リウマチや腎障害を合併する可能性があるため医師の指示に従う
マイコプラズマ肺炎	14～21日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日	発熱や激しい咳が治まっていること	脱水症状や呼吸困難に注意する
手足口病	3～5日	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	口腔内が痛い時は刺激の少ない、消化の良い食べ物にする
伝染性紅斑（リンゴ病）	10～20日	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと	いつも通りで良い・過度の運動や日光照射は避ける ※妊婦の感染に注意
（ノロ、ロタ、アデノウイルス等による）ウイルス性胃腸炎	1～3日	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているため注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	少量ずつ水分をとる 嘔吐物の処理は次亜鉛素酸ナトリウム液で行う。また処理後や排便の世の後には、流水と石鹸で手を洗う
ヘルパンギーナ	2～4日	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	口腔内が痛い時は刺激の少ない、消化の良い食べ物にする
RSウイルス感染症	4～6日	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	脱水症状や呼吸困難に注意する
带状疱疹	不定	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから	発疹がかさぶたになるまで家で過ごす
突発性発疹	約10日		解熱し機嫌が良く全身状態が良い	適切な体温調整と脱水の予防に努める
伝染性膿痂疹（とび）		瘡蓋にも感染性がある	医師の判断	爪を短く切り、ガーゼ等で覆う